

平成24年度 第3回豊田市商業振興委員会会議録（実名なし）

【日 時】 平成25年3月19日 午後2時30分～6時20分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎5階 南53会議室

【出席者】 〈委員〉

加藤 勇夫 [愛知学院大学名誉教授]
河木 照雄 [豊田商工会議所副会頭]
服部 正雄 [トヨタ生活協同組合特別顧問]
杉戸 厚吉 [社団法人地域問題研究所計画部長]
松井 栄子 [株三州足助公社 課長]
澤田 恵美子 [豊田市消費者グループ連絡会会長]
伊藤 留美 [市民公募]

〈事務局〉

小栗 保宏 [豊田市産業部長]
須藤 寿也 [豊田市産業部調整監]
早川 正文 [豊田市産業部商業観光課長]
長江 洋一 [豊田市商業観光課副主幹]
鈴木 啓介 [豊田市商業観光課係長]
近藤 美由紀 [豊田市産業部商業観光課主査]
梅村 剛 [豊田市産業部商業観光課主査]
山崎 雄 [豊田市産業部商業観光課主事]
西川 雄太 [豊田市産業部商業観光課主事]

〈傍聴者〉

なし

【次 第】

開 会

1 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて

2 委員長あいさつ

3 審議事項

(1) ソーシャルビジネス支援事業 午後2時40分～

①株式会社フードセンターいたくら

②稲武商工会

③トヨタ生活協同組合

④株式会社ヤオミ

(2) 商業活性化推進交付金 平成25年度事業計画 午後4時35分～

①足助商工会

②豊田まちづくり株式会社

(3) まちづくり構想の認定 午後5時05分～

①豊田まちづくり株式会社

(4) 商店街活性化計画 午後5時20分～
①駅前商業協同組合

4 報告事項 午後5時35分～
(1) 補助事業の実績

5 その他

6 閉会 午後5時40分

【会議録（要約）】

開会

1 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
事務局から説明された。

2 委員長あいさつ
加藤委員長があいさつをされた。

3 審議事項

(1) ソーシャルビジネス支援事業

①株式会社フードセンターいたくら

株式会社フードセンターいたくらから資料に基づきプレゼンテーションがされ、委員から意見をいただいた。

【主な質疑応答】

委員

現在実施している移動販売事業はどうするのか。

いたくら

25年度はやめて、一旦、送迎に切り替える。

委員

買い物送迎バスに行政が補助金を投入することになるが、送迎バスは、有料ではないが地域交通の一つとなる。将来的に買い物バスを地域交通の取り組みの一つとして捕らえていくのか整理をしておいた方がよい。バスのメリット、デメリットを考えると、過疎化が進んだ際にバスの乗客を確保できないといことがある。

買い物及び地域の中のふれあい事業をセットでやるというニーズはあると思う。今後この事業を他の地域に広げるなら、地域の中の交通手段の一つになるので、送迎バスを市は積極的に推進するのか、その時に考えるのか整理しておいたほうがよい。

市にとって問題がないという前提で質問する。週1回の運行だが、買い物サイクルとして週1回はどうか。

いたくら

現在実施している移動販売の客は週2回来るイメージ。「よく来てくれた」と、他で買い控えて待っていてくれる。回数を増やしたいがコストがかかるので、まずは週1回で実験する。

地域バスは末野原地区にも話があるが、運行頻度が少ないので、地域バスの需要を減らすような送迎サービスの提供はすべきではないと思っている。

委員

末野原地区で地域を巡回するバスがあるのか。

いたくら

これから走らせようという動きがあるので、競合させないようにする。

委員

多少バッティングする部分があるということ。

1年目に移動販売を立ち上げ、3年目はシナリオを変え、次はどう発展していくのか、試行錯誤しながら事業の内容を変えていくのは当然だと思うが、補助金だけで事業を廻していくのでは成り立たない。

いたくら

今年度は補助をもらわず実施した。今年の収支は損益なしとなりそう。チャレンジして客の反応を見ながら、試行錯誤は続いていくと思う。

委員

事業は完全に軌道には乗っていないよう。事業の継続性という観点で、補助金が無くてもやれるのか。

いたくら

続けるつもりである。

委員

社会貢献か。

交通安全にも留意すること。市の補助金を得て運行するので、市のバスであるも同然。そのくらい大きなことをしている気持ちでやらねばならない。安全確認やリスクを十分自覚すること。営業タクシーではないので、市の看板はなくとも、毎朝社長が従業員にしっかり指導するべき。商売としてやっているのだから、事故があってはならない。

委員

自動車事故が起こらないように方策を考えておくこと。単に店のサービスではなく、地域や商店街との関係をしっかり築くこと。そこが最も問題であると思う。

送迎バスには、どのような方法で乗車できるのか。

いたくら

区民会館を発着所とする。区長から、そこまで「来てほしい」と言われている。

委員

ルートの範囲できちんと降車させた方がいい。十分に気をつけて、市民のためにやってもらえればいい。

②稲武商工会

稲武商工会から資料に基づきプレゼンテーションがされ、委員から意見をいただいた。

【主な質疑応答】

委員

商工会の役割は。

稲武

「経営改善」「金融斡旋」「税務申告」である。

委員

それらの内部的な事業の他に地元住民への働き、社会貢献はないか。

計画事業のほとんどの部分が委託で、他人任せである。事業費の9割が補助金収入であり、補助金なしには成り立たない。この事業がきっかけづくりであることは分かるが、もう少し自分達の努力を。補助が前提の事業計画になっている。

稲 武

補助金がいただけるときに人件費として活用し、人を雇いたい。翌年度以降、配達料の経費だけになれば、利用者又は会員の売り上げから負担金をいただく方法もある。

委員

市は事業の継続性に対して補助を出すもの。補助が無くなったらこの事業はやらないのか。補助が無くても地域のサービスとしてやっていく心構えがあるか。

稲 武

事業の内容を絞り込むにしろ、続けていく。

委員

事業として継続できるのかが心配される。この事業の他に、プラスアルファの売り上げがないと持続できない。計画の改善が必要。宅配の形態で住民のニーズに合わせられるのか。

例えば「今日は旬の魚（もの）があるが、いかがか」という売込みができるか。

稲 武

商品を見てもらう必要性も含めて、事業主が各家庭を訪問し情報を収集することが大事と考える。店を知っていても人を知らないと注文してもらえない。

初年度はアルバイトと事業主と一緒に家庭を回り、汗をかいてもらうつもりである。

委員

百貨店もスーパーも、ネット販売を手がけている。これが競争相手になってく。「地産地消」で差別化するなど、良い商品がないと買わない。

③トヨタ生活協同組合

トヨタ生活協同組合から資料に基づきプレゼンテーションがされ、委員から意見をいただいた。

【主な質疑応答】

委員

細い路地の先にも住居があるので、そこまで対応してほしい。

せいきょう

集落と集落の境目は難しいが、できるだけ利用者の近くを訪れたい。

委員

1号車と2号車の利用数の差は何か。

せいきょう

2号車が巡回するエリアでは、国道301号沿線でバスによる店舗へのアクセスが良いため、移動店舗の利用が少なくなってしまう。

下山地区の外周部分にニーズがあるが、効率的な運行ルートを作ることが難しい。

委員

事業の拡大を図る姿勢を続けてほしいが、問題は、補助金がないと事業収支が成り立たないこと。2号車の経営改善、効率性をいかに上げるかは、経費削減よりも大事なことである。

せいきょう

利用者を増やしながら経費を下げるという両面が必要。下山エリアの特性に合った品揃えを提供していく。1号車・2号車とも同じ品揃えでいるので、地域の特性を研究したい。

なかなか地域へ浸透していなかった。当初2名の利用しかなかった停留箇所、地域サロンを利用して試食会を開き、話を聞いたところ、各戸回覧では息子夫婦が閲覧するだけであったり、まだ自分には必要ないと思われたり、トラックに入ることが恥ずかしいということであった。現在の利用は10名位に増えた。

そういう地域の照れ屋なお母さんたちに、積極的に働きかけていくことが2号車の大きな改善につながると思う。

委員

買い物は、実際に手に取ることが楽しいもの。下山でも、交通アクセスが不便な地域がある。バスを利用できない人が、地域でコミュニケーションをとりながら、楽しめることを提供してほしい。恥ずかしさが取り除かれる取り組みもしてもらえると、この地域の利用も伸びていくのではないかと思う。山の奥の地域の人たちも大切にしてもらいたい。

委員

コストオペレーションとサービスの両面で改善を。人件費だけローコストではなく、経営の努力が必要。

④株式会社ヤオミ

株式会社ヤオミから資料に基づきプレゼンテーションがされ、委員から意見をいただいた。

【主な質疑応答】

委員

国の補助を受けることは、市の採択とセットになるか。

事務局

別問題である。

委員

せいきょうとの住み分けは。

ヤオミ

トラックが入れるところはせいきょう、軽トラックしか入れないところは商工会。

事務局

冷田・佐切地区をせいきょう、その他の地区がヤオミ。冷田・佐切ではせいきょうのほか足助商工会が実施する。

委員

地域の役割分担がされているか。

ヤオミ

事前に協議をし、商品がバッテリーしない形にしている。

委員

実験では提供できなかった冷蔵品が取り入れられる。道路は狭いし、軽トラックが妥当と思う。

委員

実験時の利用人数が非常に多いが、どのような努力で集めたのか。

ヤオミ

商工会がほとんど音頭を取ってくれ、区長を通じて地区の人に周知してくれた。「よく来てくれた、応援する」という声がたくさんあった。販売に来てくれるなら、買わなければならないという勢い。

委員

自治区と連携しなければ難しい。誰かが利用していれば、自分も利用してみようとなるが、一人で買物に行くのは恥ずかしい。「買物弱者対策」は、まだ自分の年齢には早いと躊躇してしまう。

(2) 商業活性化推進交付金 平成25年度事業計画

①足助商工会

足助商工会から資料に基づきプレゼンテーションがされ、委員から意見をいただいた。

【主な質疑応答】

委員

空き店舗対策で、24年度に配置計画を策定したという。空き店舗が発生しているのは、計画どおりに行かないからであり、計画を策定する意味はあるか。新しい商業者があり、むしろそういう人たちがなぜ足助に来たのか、どういう事業展開をしているのかを探ってはどうか。従来の店は、高齢化などでパイが小さくなり事業が成り立たないから空き店舗になっているので、理想的な配置計画を作ってもあまり意味がないように思える。

足助

商店街は5つの地区に分かれていて、地区ごとに発展会がある。西町は飲食店が多く、本町には伝統的建造物がある。飲食ゾーン、文化ゾーン等に分け、出店したい人には、そのゾーンに入ってもらおうよう案内する。

委員

計画を作るのは良いが、物件の有無もあるし、足助へ来たい人にどういう情報提供ができるのか。関心があるだけでは事業はできない。「足助で事業を展開するならこういうポテンシャルがある」と、新しく入った商業者の動きや、どのようなターゲットかという事例を整理し、足助出店に関心のある人にきちんと情報を提供することに意味がある。ゾーニングしても、計画どおりに行くことはない。

足 助

重要伝統的建造物群の指定を受けている空き家もある。計画を提示しながら、一緒にまちづくりをしてもらう働きかけが必要。あえて5年後10年後の夢を見るような絵を描きながら、みんなでがんばって考えていかなければならないと思っている。

委 員

誰かが知恵を出してやっていかないと5年後10年後の足助のまちは崩れてしまう。商工会への期待は大きい。地域貢献の部分で力を出していかなければならない。財産分与の関係で処分できない空き店舗などは、商工会会員の専門職を生かした相談窓口を作るなどしてはどうか。

委 員

豊田市の中で最も観光のまち。足助独自のまちというのがないと、まちの中までは踏み込んで来てもらえない。

足 助

足助がまず人を呼んで、その先の稲武まで人を送れるようにならなければならないと思う。単なる観光地ではなく、地域を想う気持ちで商売が成り立つまちをつくりたい。

②豊田まちづくり株式会社

豊田まちづくり株式会社から資料に基づきプレゼンテーションがされ、委員から意見をいただいた。

【主な質疑応答】

委 員

フリーパーキングシステム加盟店の増加、駐車場利用台数の増加、まちなか宣伝会議構成団体の増加は顕著な結果であるが、これだけ多額の交付金を使って、たった3つなのか。もう少し商業活性化につながる成果を出してほしい。いくつもの事業を着実に実行すると同時に、単に継続するだけでなく、次の取り組みが最善だという考え方はすばらしい。目に見えるような新しさが出ているか関心を持つ。市の助成に頼らずに自助努力でやれるように。

まちづくり

自分たちでやらなければならない部分は多分にある。自分達で変えていって初めてうまくまわることがある。その部分を段々増やしていることも確かである。

委 員

中心市街地全体として年間を通してにぎわいづくりに繋げていくような、情報発信できるしかけを月に何回かされるように、中心市街地に係わる主体をコーディネートする力をまちづくり会社が発揮することが期待される。豊田のまちとしてアピールできるポイントが必要だと思う。豊田市で働いていながらも、中心部にひきつけられる力が弱いようだ。中心部として総合力を発揮しながら、ひきつけていくポイントを見つけていきたいと思う。

委 員

市街地の事業者の責任が大きいと思う。目標の指標にほぼ到達しているが、実感として賑わいを感じているのか。来店客数が増えて採算性もあがっているだろうか。

違うメジャーが必要なのではないかと感じている。まちづくり事業者と市街地の事業者がしっかり連携できるようお願いしたい。

(3)まちづくり構想の認定

①豊田まちづくり株式会社

豊田まちづくり株式会社から資料に基づきプレゼンテーションがされ、委員から意見をいただいた。

【主な質疑応答】

委員

事業が多すぎるので、もう少し絞った方が良い。総花的になっている。

委員

名古屋で、一時盛り上がってしぼんでしまった地域がある。そこではプレイヤーとして活動している人たちの顔が見えず、チェーン店の集合体のようなところがある。まちの魅力を作る時に、主人公という形でプレイヤーの顔が見えるようになると、まちのパワーが出てくる。

委員

本山・今池は地下鉄の新線開通で人の流れが変わってしまった。今日の一等地は明日の三等地となり得る。

委員

北街区再開発は、きれいになるが魅力はないと感じる。商店がもう少し独自性を出していかないと、再開発が受身であってはうまくいかない。

まちづくり

快適性、面白さが課題。まちにはそういうものが必要。

加藤

豊田市はきれいさを求めすぎている。

まちづくり

民間が取り組まなければいけない部分と思う。

(4) 商店街活性化計画

①駅前商業協同組合

駅前商業協同組合から資料に基づきプレゼンテーションがされ、委員から意見をいただいた。

【主な質疑応答】

委員

第一印象で、商店街の北側ではなく、歩道が広いコモスクエアの側を歩いてしまう。

駅前

歩行者通行量に如実に現れており、例外は雨天時のみ。北街区の再開発では、コモスクエア側と同じ広さの歩道にする。さらに、施設の内側からでなく、通りから入店できるようにする。

委員

27年度までの計画となると、消費税増税の動きが影響してくる。これまでの3か年計画の流れとは大きな違いが出るのではないか。街区内の事業者がレベルアップするような指導をしてもらいたい。

駅 前

再開発が行われるのを、よい機会と捉え、現在の商売そのものを見直していく。商業調査委員会を開催しており、アドバイス等を取り入れ、業種転換も含めてよい業種をそろえた商店街としたい。

委 員

飲食店等は、商店街としての特別な取り組みをしなくても売上げがあるため、組合活動に参画を得にくい。再開発中は商店街の体裁を欠いてしまうため、対策やサポートが必要になる。工事期間中の2年間を含め、きちんと商店街のマネジメントをしていかなければならない。北街区に入ってくる商店との連携と商店街活動に参加してくれる店を北街区に誘致していくことが必要。